

初心者コーナー

海外インフラシステム輸出の課題(4)

1. はじめに

今回は、投資家の代理人であるプロジェクト・マネージャー (PM) をサポートするプロジェクト・コーディネーター (PC)、リーガル・アドバイザー (LA) 及びファイナンシャル・アドバイザー (FA) の収益方法を述べます。

2. PM, PC, LA及びFAは可用性と成果主義で収益

投資事業の上流から実施開始までの流れを確認すると、投資事業を特定してから、①コンセプト創りと各種調査などの準備、②投資事業提案書の作成及び提出、③相手国政府等との交渉、④仮契約締結、⑤本契約、⑥SPC設立、⑦事業開始となります。⑥SPC設立を以って⑦事業開始とも言えますが、必要な借入資金が最初にSPC口座に入金されたことで、本格的な事業が始まりますので、⑦事業開始は金融機関からの最初の借入れ資金の入金と言う方が適切です。

この①～⑦の段階でPM、PC、LA及びFAと投資家及びSPCとの間の一般的な支払い関係を図-1に示します。

まず、PMですが、投資家から契約などに基づいて①から⑤までは毎月報酬を受け取ります。SPCが設立された時点で、投資事業の責任者はSPCの代表になりますので、PMの役割はなくなります。ここで、投資総額の0.15から0.25%の成功報酬（ボーナス）を受け取ります。

PCは、PMの助言的な性格ですので、PMと同様、投資家から契約などに基づいて①から⑤までは毎月報酬を受け取り、SPCが設立された時点で、投資総額の0.15から0.25%の成功報酬を受け取ります。

LAも、投資家から契約などに基づいて①から⑤までは毎月報酬を受け取り、SPCが設立された時点で、投資総額の0.15から0.25%の成功報酬を受け取ります。しかしながら、図-1では現れていませんが、LAは、引き続き、事業実施段階でSPCをサポートするため、SPCと改めて契約を締結し、報酬を得ることになります。

FAについては、提案書に記載した事業資金の調達について⑦最初の借入金入金まで責任がありますので、①～⑥までの間、投資家との契約などに基づいて毎月報酬を受け取ります。そして、最初の借入金がSPCの銀行口座に振り込まれた段階で投資総額の0.15から0.25%の成功報酬を受け取ります。

成功報酬の割合は、投資総額が大きいと少なく、小さいと大きくなります。例えば、500億円の投資事業であれば0.15%、200億円くらいですと0.25%が相場ではないでしょうか。LAでは日本と現地で2者と契約する場合は

ありますが、この場合はこの割合を折半することになります。

投資事業の流れ

	①コンセプト準備	②提案書作成・提出	③交渉	④仮契約締結	⑤本契約締結	⑥SPC設立	⑦最初の借入金入金
投資家	支払	支払	支払	支払	支払	FAへ支払	①の支払額と自己負担をSPCから受領
PM	月決額受領	月決額受領	月決額受領	月決額受領	月決額受領	投資総額の0.15-0.25%受領	N.A.
PC	月決額受領	月決額受領	月決額受領	月決額受領	月決額受領	投資総額の0.15-0.25%受領	N.A.
LA	月決額受領	月決額受領	月決額受領	月決額受領	月決額受領	投資総額の0.15-0.25%受領	N.A.
FA	月決額受領	月決額受領	月決額受領	月決額受領	月決額受領	月決額受領	投資総額の0.15-0.25%受領

図-1 プロジェクト・マネジメント・チームの収益

3. 投資家は短期で準備費用を回収

投資家は、①～⑥までの間は、PM、PC、LA及びFAへ毎月報酬を支払い、さらに、専門分野のコンサルタントなどへの支払いを行う必要があります。しかしながら、最初の借入金が入金された段階で、投資家はSPCの株主としての立場から、SPCから①～⑦での全ての先行投資額（自社の人件費や適正利益も付加）を受け取ります。これができるように、資本金の構成や最初の借入額を提案書の作成段階から決めておき、仮契約の中で何らかの形で明記しておきます。本契約は、基本的に仮契約と事業内容は同じですので、先行投資額が受け取れるのです。投資家は、この払い戻し金があるために、新たな事業へ経営資源を投入できることとなります。このように、投資事業立ち上げビジネス自体は、中短期的なビジネスと言えます。さらに、投資家は、SPCの株主として順調に事業展開が進んだ段階で、保有する株式の一部をプレミアム価格で随時譲渡するとともに、保有する株の株式配当を受け取ることとなります。

4. おわりに

今回まで4回連続して、海外インフラ・システム輸出の課題で、特にわが国で知られていない側面を説明してきました。

インフラ・システム輸出がODAによるインフラ整備などの請負事業とは全く異なることを読者の皆様にご理解頂けたのであれば、幸甚に存じます。

(海外支援室 審議役 藤森祥弘)